

人工干潟プロジェクトは、自然の力で 堀川再生を手助けする実現可能な提案。

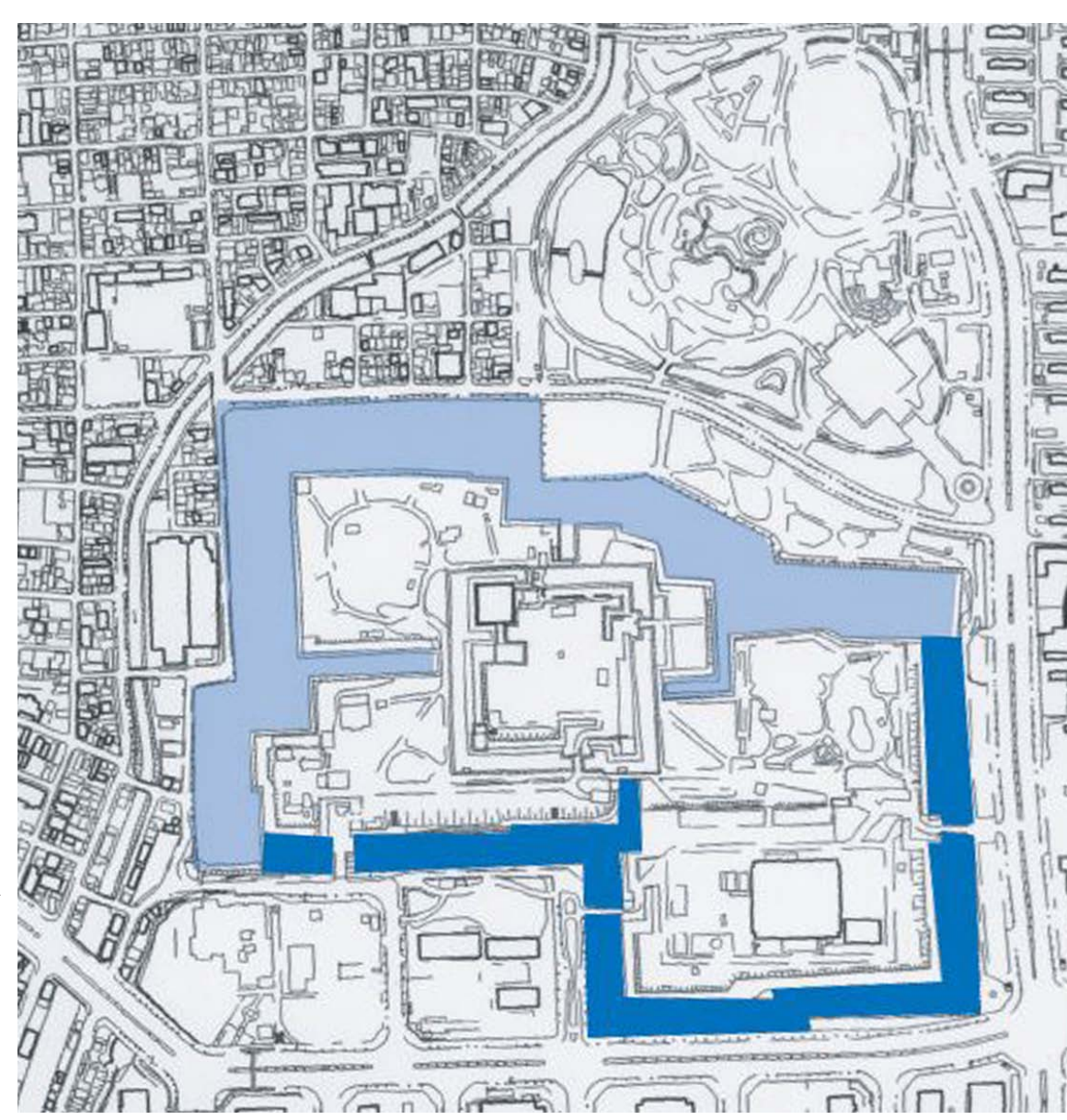
名古屋にとって数少ない貴重な水辺空間「堀川・中川運河」の浄化は、喫緊のテーマである。そして、堀川の浄化を自然の力で手助けする方法として、名城公園に「人工干潟」を提案する。

- 人工干潟は、堀川再生の為に心肺機能となるよう、名城公園に約5ヘクタール程の池を掘り込み堀川の堤を切り開いて堀川と一体化し、池底を干満による干潟が出来上がるよう造形する。
- 人工干潟の岸辺は、生態系の多様化を図る為、エコトーン（遷移帯）として整備する。

名城公園は且つて大きな蓮池を擁する御深井御庭があり、約5ヘクタールの程の自浄能力を持つ人工干潟を整備することは、御深井御庭の復元にもつながる。



御深井御庭の土地は、もともと深げ（沼地）の大堀がつづいて、御庭の南半分は大きな蓮池が占めていた。また築城時の土取りや残土処理を利用しての作庭は、自然の景観を活かし、南北に大きく二分すべく、中央に松山を構え、植木を植えて外よりの見透しを防ぎ、上述の大堀を蓮池としそこに面して三茶屋（松山・瀬戸・竹長押）を設けていた。



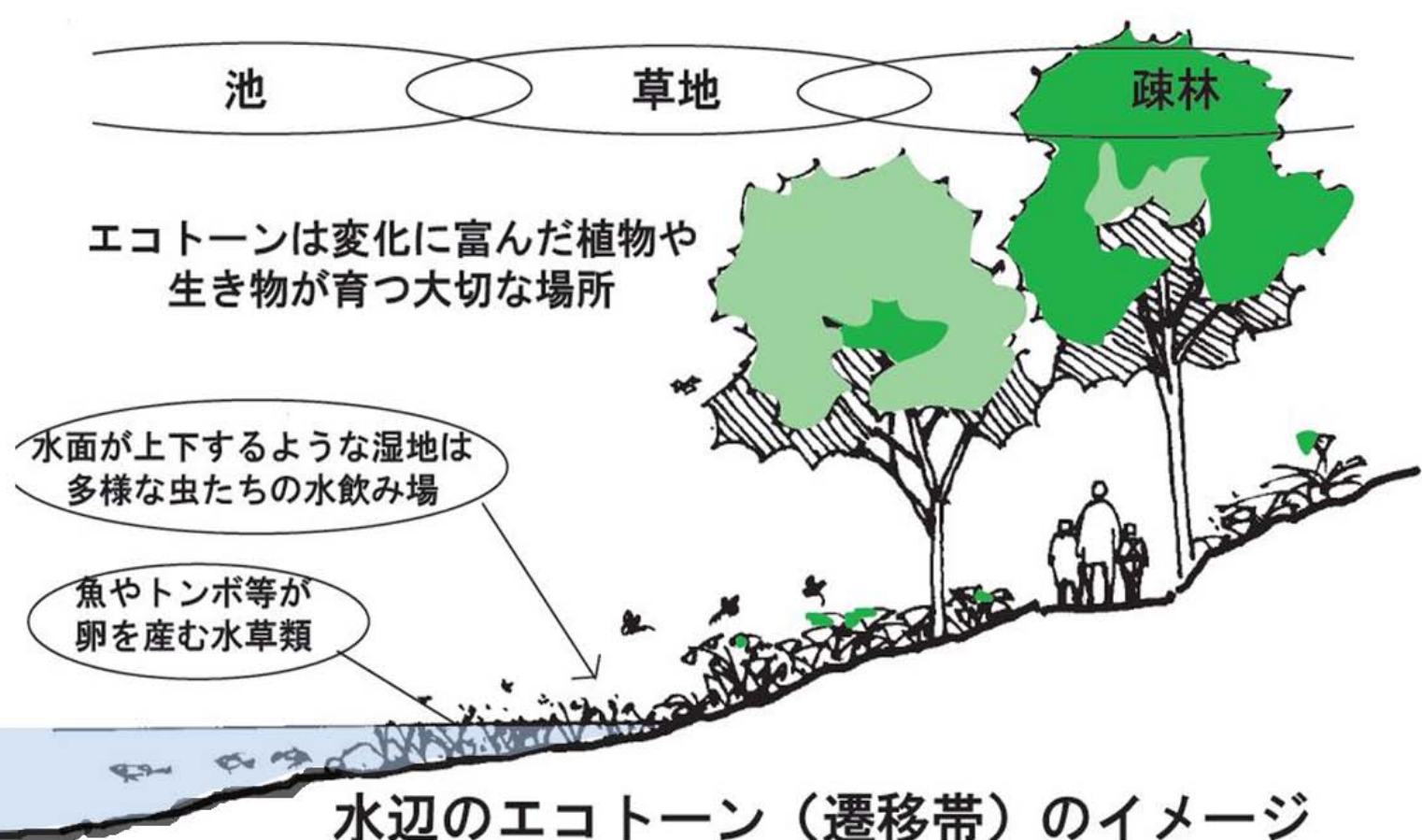
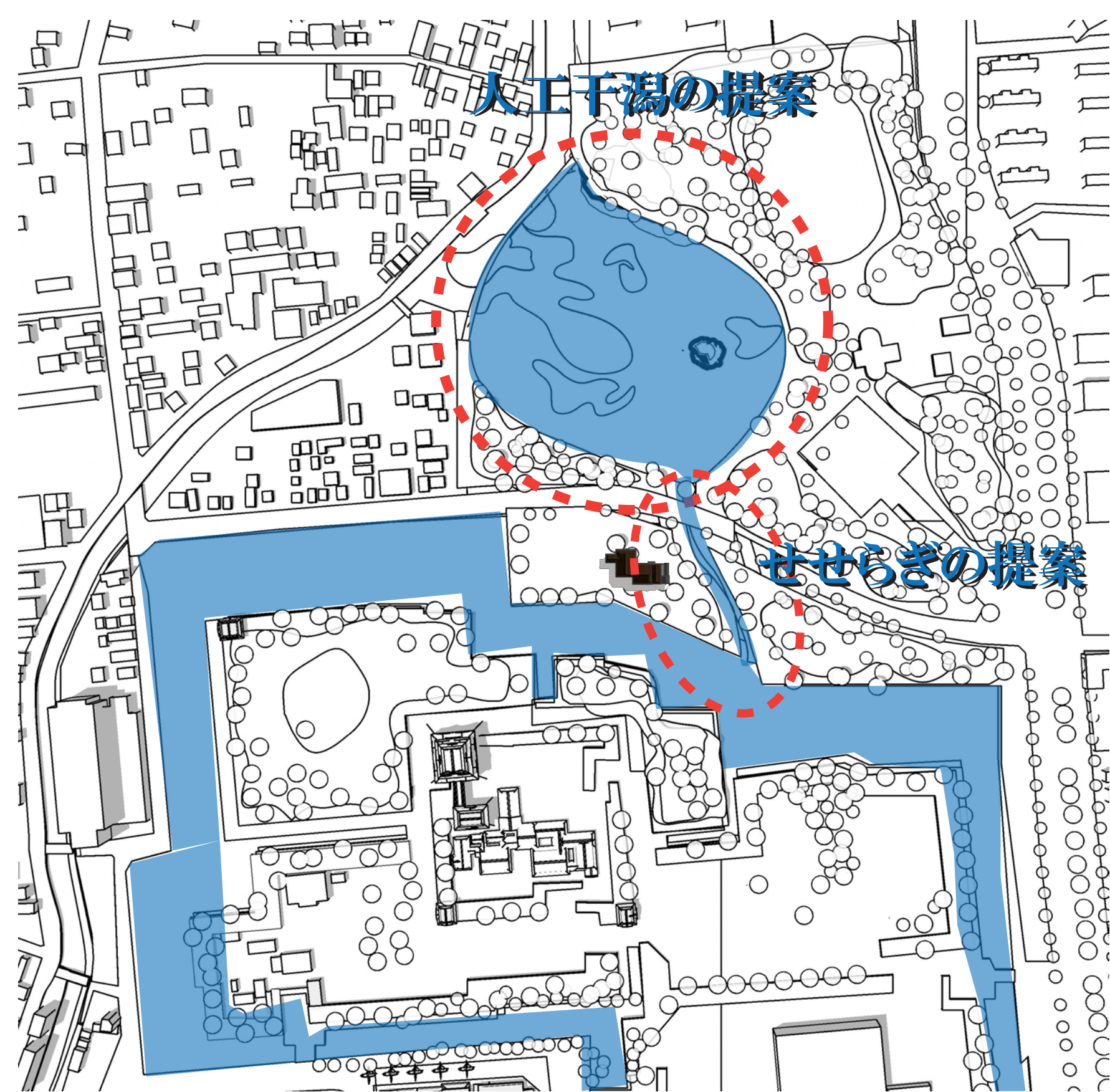
現在の名古屋城
■：空堀に導水する



満潮時の人工干潟



干潮時の人工干潟



水辺のエコトーン（遷移帯）のイメージ

エコトーンとは、水と陸上のような二つの環境の移り変わる遷移帯のことで、どちらも違った特徴が見られることから、地域の生物多様性を高める上で重要な役割を果たす。